

仕事をしながら自分のペースで14年間
治療を続けている方の経過報告。

「完治まであと一步」山元尚紀 45歳

2016年8月30日

24歳頃、初めてアトピーの症状が出た。小さい頃から肌は弱い方だったが、このような症状は初めてだった。勤め先の人で紹介で近所の皮膚科へ。ワセリンによる治療だったと思う。症状が改善しないので、日赤へまわされた。これが悪夢の始まりであった。日赤ではステロイドによる治療を受けた。症状は徐々に改善し、順調のように思われた。しかし、良くなって塗布をやめるとリバウンドし、良い時と悪い時を繰り返した。特に冬場など代謝の悪い時期は症状が悪化し、「ステロイドをしっかり塗り続ける」ことを勧められた。そしてだんだんステロイドも効かなくなっていく。今から思うともうすでに全身ボロボロだった。

31歳頃、当時の勤め先の人に松本医院を紹介してもらった。初めはあまりよく考えないで、軽い気持ちで診察を受けに行った。先生のキャラクターや治療に関するお話、大量に処方してもらった漢方薬や、支払った金額など……。いろいろとびっくりすることも多かったが、とりあえず漢方治療を始めてみるしかないと思った。初日は漢方薬を煎じて飲んで、漢方風呂に入って、「ちょっと肌が潤って良くなったみたい」と、軽い感じの感想を漏らしていた。しかし数日後、地獄が始まった。ステロイドをやめたことで、リバウンドが始まったのだ。しかし、それは本当の治療の始まりでもあった。肌は赤黒くなり、リンパ液が流れ、全身痒くて辛い症状だった。そのうち、通常的生活ができなくなり、仕事は休職した。

毎日漢方風呂に入って、煎じ薬を飲んで、後は何をしていたかほとんど覚えていない。生きた心地がしなかった。1年くらいして仕事に復帰した。昼間は比較的普通にしていたが、夕方遅くなると発作のように痒くなった。普通の人の何十倍も疲れた。でも、働かないと生きていけないので、煎じ薬を控えて、お風呂と赤い軟膏をメインの治療にした。改善のスピードはゆるくなったが、働きながら治療を根気よく続けた。

現在45歳。漢方の量も極小になり、完治まであと一歩というところだ。膝裏とか、部分的にはたまに調子が悪い時もあるが、ぱっと見わからないくらい普通に生活している。ひょっとして漢方治療のスピードをゆるめてなかったら、もうとっくに完治していたかもしれない……。でも、人それぞれペースがある。

今、一番感じているのは、結局アトピーを治すのは、自分自身の力でしかないということだ。自分の免疫力が治すのだ。ストレスは敵だ。だから、思い詰めず、楽しいこともいっぱい考える。そして、自分は他の人と同じように仕事している上に、さらにアトピーとも闘っているということに、自分の強さや頑張りを感している。さあ、もう少し頑張って、残りの人生を健康な体で幸せに過ごしていきたいと思っている。